

明治時代の松平春嶽

- 会場 松平家史料展示室
- 会期 平成25年9月11日(水)
～11月4日(祝)
- 休館日 9月24日(火)

第16代藩主として福井藩の改革を進めただけでなく、幕末四賢公の一人として幕政改革に力を尽くした松平春嶽^{しゅんがく}。彼は王政復古のクーデターを経て、新政府の一員として明治時代を迎えます。民部卿・大蔵卿などを歴任しますが、明治3年(1870)には公職から退き、隠居してしまいます。

その後は華族として天皇行幸の際などに随行し、第十五銀行や学習院の設立に関わります。また、『逸事史補』や『真雪草紙』など執筆活動も精力的に行っています。さらに、旧領福井の人々とも変わらぬ交流を続けています。

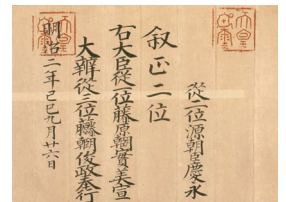
明治23(1890)年に亡くなるまでの春嶽の活発な活動を、越前松平家に伝えられた多くの資料から紹介します。

【明治時代における松平春嶽の主な活動】

年	月日	事項 ([] 内は出典、特に記載のない場合は『家譜』より引用)	関連展示資料
慶応4年 〔明治元年〕 (1868)	1月17日	新政府の内国事務総督に就任する	議定職内国事務局輔任命の辞令
	6月27日	権中納言に任ぜられ、従二位に叙せられる	
	8月27日	明治天皇の即位の儀に出席する	
	9月7日	春嶽が新しい年号の候補をいくつか出し、その中から「明治」と決まる〔逸事史補、岩倉公実記〕	逸事史補
	9月8日	明治と年号を改める式(改元式)に出席する	
明治2年 (1869)	5月15日	職務をすべて免ぜられ、民部官知事に就任する	
	5月21日	グリフィスが春嶽を来訪する	
	6月2日	明治天皇より春嶽、茂昭が永世禄一万石をいただく	
	7月8日	民部卿に任命される	民部卿任命の辞令
	8月11日	民部卿と大蔵卿を兼任する	
	8月24日	民部卿兼大蔵卿を免ぜられ、大学別当兼侍読に任命される	大学別当任命の辞令 松平春嶽筆矢島立軒宛書翰
	9月26日	王政復古時の貢献により、階級を一つ上げて正二位に叙せられる	叙正二位の位記
明治3年 (1870)	10月29日	山内容堂、豊岡大学大監を招待して宴会を行う その席に大沼枕山らと呼ばひ、その席で書画を揮毫させる	書画帖
	3月22日	青松院(春嶽の生母)、勇子(妻)が東京へ移るため福井を出発、9日東京着	
	7月13日	役職を免ぜられ、麿香間祇候(じゃこうのましこう:名譽職)となる これ以降公職から退く この年『逸事史補』起筆(明治12年9月まで継続)〔逸事史補〕	逸事史補
明治4年 (1871)	5月23日	青松院(春嶽の生母)死去	
	9月30日	初めて散髪をする	
明治5年 (1872)	4月12日	真崎別邸が完成する	
	8月25日	明治天皇から直衣(のうし)をいただく	白地冬引直衣
	9月12日	新橋-横浜間の鉄道開業式に、天皇のお供として参列する	
明治6年 (1873)	5月30日	欧米を訪れていた大久保利通が帰国したため開かれた宴会に出席する	大久保卿帰朝に付御陪食宴記事
	6月18日	墓参のため福井へ向かう29日福井着	北行略日記一、越行日記六
	7月9日~12日	三国に滞在、10日に札幌半左衛門の陶器製造を見る	松平春嶽手造り三国焼盃
	7月26日	福井発 8月6日真崎邸へ帰着	
	12月19日	明治天皇が春嶽の真崎邸へお立ち寄りになる	真崎邸江行幸之記
明治7年 (1874)	4月8日	三国の有志が春嶽の像を寄付するため彫工の島雪齋を伴い上京、真崎邸を訪問する	
	6月1日	華族会館設立に伴い、役員投票のため出席	
明治10年 (1877)	1月17日	天皇の奈良・京都行幸の先発として出発する	滞西日録
	2月25日	真崎邸から小石川邸へ転居する	
	4月14日	西南戦争勃発に伴い、福井に書状を送り、志願兵募集に積極的に応じるよう督励する	
	5月18日	行幸先の京都から墓参のため福井へ向け出発する 福井では運正寺、瑞源寺等参拝し、各所を訪問する	
	6月6日	福井を出発 14日に転居先の小石川邸へ到着	
	8月28日	春嶽の書いた手記などの整理を中根雪江に命じていたが、整理が完了する	
	10月3日	中根雪江死去	
	10月17日	華族学校(後の学習院大学)開業式に参列し祝詞を朗読する	
	12月8日	第十五国立銀行開業式に出席する〔礪川文藻〕	
	12月9日	西南戦争で戦死した旧臣の招魂祭を行う	



『逸事史補』



位記「正二位」



天賜 白地冬引直衣

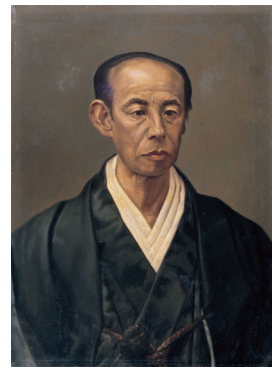


松平春嶽手造り
三国焼盃

明治11年 (1878)	2月16日	真崎邸を売却する	
	6月6日	海上保険会社創立に伴い、1万7千700余円を出資することとする	
	6月9日	第十五銀行への出資に関し、松平一族に通知し調整を行う	
	7月24日	御泉水邸内に小学校を建築することとなり、名称を春嶽が5つ選んだ中から「原泉」と決定(後の宝永小学校) 額面と掛軸を春嶽が揮毫する	松平春嶽筆「原泉混々云々」の書類
	10月12日	御泉水邸の邸号を「浴恩閣」と名づけ、揮毫する	
明治12年 (1879)	1月29日	明治天皇より『徳川礼典録』の編纂を命ぜられ、それに伴い伊達宗城、池田茂政が来邸	
	4月26日	東京地学協会に出席し入会する	
	9月18日	『逸事史補』完結	逸事史補
	10月9日	橋本左内没後20年の式のため、祭文を書く	
明治13年 (1880)	3月14日	『真雪草紙』起筆(明治16年まで継続)	真雪草紙
	4月3日	板倉松叟・大久保一翁・勝安芳・福澤諭吉・和田儀郎を招く [礫川文藻]	勝海舟書扁額
明治14年 (1881)	4月5日	全国に鉄道敷設する鉄道会社設置に対し出資を行う	
	5月17日	佐佳枝廼社参拝のため福井へ向け出発 6月23日帰着	
	7月16日	勲二等に叙せられ、旭日重光章をいただく	
明治15年 (1882)	1月27日	明治天皇に拝謁、徳川礼典録を献上したことに満足であるとお言葉をいただき、花瓶一對をいただく	徳川礼典録 天賜花瓶
	2月12日	一時消滅した福井県が14年2月に再置県されたため、福井県令石黒務へ祝文を送る	
	3月13日	側室ふじが男子を出産、慶光と名づける(後に慶民と改名)	
	4月29日	東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く	
	8月8日	壬午事変(朝鮮国内における兵士の反乱)に対し、日本としてどのように対処すべきか意見書を記す	
明治16年 (1883)	3月6日	藤垣神社(越前市所在)に石灯笼1対、体育会(福井の士族が剣柔術演習のため開いた道場)に70円を寄付する	
	4月14日	両國中村楼において開催の越前人の懇親会に参加する	
	7月4日	宮内省で維新前後の史料を蒐集することとなり、記録の提出を求められ、12部74冊を提出する	
	10月16日	『真雪草紙』稿了	真雪草紙
	10月19日	『閑窓乗筆』起筆(11月26日稿了)	閑窓乗筆
明治17年 (1884)	1月3日	この日新年初の揮毫 [礫川文藻]	松平春嶽筆「鶴舞千年云々」の書幅
	1月23日	鍋島直大・松浦詮と共に学習院を帝立とするよう建言書を提出する(後に学習院は官立となる)	
	3月1日	散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻]	松平春嶽肖像写真
	4月23日	小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として200円寄贈する	
	5月9日	『雨窓閑話』起筆(18年5月30日稿了)	雨窓閑話
	8月21日	御泉水邸の呼び名を養浩館と改める	
	9月17日	秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂正する	
	10月4日	佐々木長淳二男である三六に依頼した肖像画が完成 [礫川文藻]	松平春嶽肖像画
明治18年 (1885)	4月21日	桜谷神社を三国神社と改称するにあたり、その額字を揮毫し送る	
	11月22日	小塚原の橋本左内碑が落成、申告祭に出席する	
明治19年 (1886)	8月11日	『前世界雑話稿』執筆	前世界雑話稿
	9月29日	福井県令石黒務の求めに応じて、敦賀の金崎隧道の額字を揮毫して送る	
	10月5日	側室ふじが男子を出産、錦之丞と名づける(後に尾張徳川家の養子となり徳川義親と改める)	
	12月20日	関口町120番地に別邸を新築、移転式を行う(転居は翌年4月28日)	
明治20年	1月6日	妻男子死去する	
明治21年 (1888)	1月17日	春嶽の勲功により、茂昭に侯爵を授けられる	「いにしへに云々」の和歌、「明治維新云々」の詩の対幅
	9月7日	従一位に叙せられる	叙従一位の位記
明治22年 (1889)	3月7日	憲法研究会開設に伴い、参加の勧誘を受けていたが、この日開催された会に出席する	憲法論
	5月21日～28日	背部凝聚、嘔吐、下痢等の病状があり重篤となるも、病状は軽減・安定する	
	6月3日	勲一等に叙せられ、旭日大綬章を授与される	松平春嶽勲一等旭日大綬章勲記 松平春嶽宛勲一等旭日大綬章
	11月29日	憲法発布記念章を授与される	大日本帝国憲法発布記念章・授与之証
明治23年 (1890)	2月1日	武田正規を渡辺洪基のところへ遣わし、約束を違えて『逸事史補』を他人に見せた件について尋問する	
	4月16日	上京中の福井尋常中学校校長及び学生と面会する	
	6月2日	急性肺水腫を発症し薨去	故従一位勲一等松平慶永略伝
	6月8日	品川海晏寺に埋葬する	



天賜花瓶



松平春嶽肖像画



勲一等旭日大綬章

次回の展示 松平家史料展示室

テーマ展 武家文書の世界

11月6日～12月26日

松平家史料展示室 展示解説シート No.77
平成25年9月11日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 (0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
担当 田中伸卓

印刷 宮本印刷